

まちの話題

家庭料理の良さをもちっ 子どもたちに

第5回光市女性のつどい

明るく住みよいまちづくりに女性の感性と視点を生かすために、光市女性団体連絡協議会が1月24日(土)、「第5回光市女性のつどい」を大和スポーツセンターで開催しました。

「今の子どもたちは危ない」をテーマに、創美社会体育研究所所長の丹羽美智子さんが、自らの体験をもとにして講演。参加者の共感を



市民の安心安全に新戦力

日本損害保険協会から

高規格救急車の寄贈

1月29日(木)、(社)日本損害保険協会から光地区消防組合に高規格救急車の寄贈があり受納式が行われました。同協会では毎年、社会貢献の一環として全国の自治体を対象に救急車や救急用資機材の寄贈を行っています。式では同協会山口損保会の佐田広会長から市川管理者に目録が手渡され、救急隊員による救急訓練も披露されました。今後は、北消防署に配備され、新戦力として救急救命活動のさらなる向上のために活躍します。



言葉の壁を超えた ふれあい体験

各国料理で異文化交流

外国文化に触れることで、市民の国際感覚と国際理解を深められるよう、光市国際交流連絡協議会が主催し、(財)山口県国際交流協会創立20周年記念イベントを兼ねた「第15回光市国際交流のつどい」各国料理で異文化交流」が2月8日(日)、周防の森ロτζジで開催されました。

当日は、県国際交流員で中国出身の郭淑微さん、韓国出身の辛裕美さん、本市英語指導助手(AET)でアメリカ出身のセラ・ヘアードさんを講師に85人の参加者が各国の料理に挑戦しました。また、韓国の民族衣装(チマチヨゴリ)の着付体験や講師による自国の文化の紹介など、国際色豊かなイベントも行われ、参加者は国境・文化・言葉の壁を越えたふれあいを楽しみました。



生きがいを担って

「つつじ園」が設立20周年

市内の心身障害者の皆さんの自立支援と社会参加の機会を提供することを目的に、平成元年に開設された心身障害者福祉作業所「つつじ園」が開園20周年を迎え、2月4日(水)、記念式典が開催されました。

この施設は、昭和38年に国体ヨツト会場本部として作られた施設の改修・整備を行い、現在は障害者(児)地域支援施設として利用しているものです。園生にとっても、いろいろな創作活動や親睦活動に親しめる、かけがえのない場所です。関係者とともにこれからもしっかりと活動することを、13人の園生一同は決意を新たにしています。

